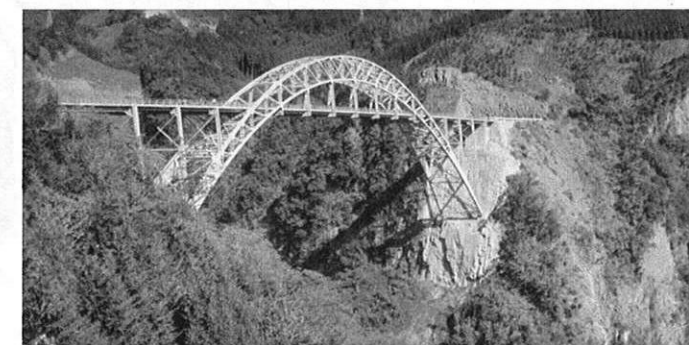


矢部周辺県立自然公園

九州山脈と阿蘇南外輪山に囲まれた一帯で、原始林や緑川の清流が刻んだ緑仙峡や内大臣などの溪谷美が trasparen、平家の哀史や、阿蘇家矢部在城の史蹟伝説などを秘めたかくれた観光地である。
みどころとしては五老ヶ滝、蘇陽峡、通潤橋、内大臣峡などがある。



上・八朔まつりでは名物の造り物コンクールで賑う。
—矢部町—



上・緑川にかけられた内大臣橋は林業開発と観光に役立っている。



上・矢部地方の霧ふかい盆地では昔から茶園経営がさかん。



上・かつて布田保之助がサイフォン原理を応用してつくったかんがい用の通潤橋は今日にいたるも、周辺の100ヘクタールに及ぶ水田をうるおしている。
下・蘇陽峡溪谷は秋の紅葉が特に美しいので有名。



△ここに人あり▽

人形芝居と共に

★上益城郡清和村
倉岡今朝雄さん
山下常十さん

「塙はなれし時鳥、子で子にあらぬ自らを、この年月のご養育……」

秋の穫り入れも終ると、清和村「肥後文楽座」の公演シーズンに入る。会場になる村の公民館などには、農閑期の憩のひとときを、文楽で楽しむ農家の人たちが集ってくる。観客はさすがにお年寄が多い。孫を膝の上にのせたおばあさんの姿もみられる。

お得意のだしものは、三国伝玉藻の前「神霊矢口の渡」や「八陣守護城」など二十近くの上演芸題のうち、一座のもっとも手慣れたものだ。浄りの語り、三味線の叩きつけるような響き、そして生き生きと喜怒哀楽を表現する人形の動きがいつしか観客の心を吸い寄せていく。



人形の頭もいろいろ

★ ★
熊本市からバスで二時間。阿蘇の外輪と九州

山脈にはさまれて、平和なたたずまいをみせている上益城郡清和村。ここに熊本県で唯一の文楽人形座、「肥後文楽座」がある。一座は座長の高木輝雄さんほか十八人。いづれも農家の人たちである。
肥後文楽座の歴史は古い。江戸末期、人形芝居は四国の淡路から豊後をへて、菊池の旧水源村へはいってきた。そして、ここに座を構えた四町分座を拠点に肥後一円に人形芝居が盛んになり、清和村のそれも、この流れをくみ嘉永年間(一八四八―五四)に一座が誕生、幾多の風雪に耐えて今日まで引継がれてきたのである。

伝統の灯をともして

倉岡今朝雄さん(七十九歳)と山下常十さん(七十五歳)。二人は、文楽人形技術保持者である。昭和三十五年、村の文楽人形芝居が県の無形文化財になると同時に、県の技術保持者として指定を受けたのだ。

浄りを始めたのは、倉岡さんが十四歳、山下さんが二十歳の時。「その頃は、県内の人形芝居の全盛時代でした。村で浄りを知らない者はろくでなしといわれたのですよ。県内にも二十数座はあったでしょう。」

しかし、明治末から大正初めにかけて、時代の流れには抗しきれず、県内の一座は自然消滅。その中で、清和村のそれだけが、今上天皇即位記念を契機として復活したのである。

苦労も多かった。倉岡さんと山下さんは、それをつぶさに体験してきた。「終戦後も、上演するたびに進駐軍の検閲を受けねばならなかった。不良興行師に泣かされたことも再三あった。なかでも資金不足は深刻で、幾度も解散寸前に追いこまれた。」という。そういうなかで、これまでよく維持されてきた陰には、米や茶摘みの収入の中から一人一人が資金を出し合ってまで、伝統の灯を守つていこうという、一座の人たちの人形芝居に対する積極的な姿勢があったのである。

この芸に生涯をかけて

今も、倉岡さんは浄りを語る太夫に、ある時は人形づかいにと多芸ぶりをみせ、一方、山下さんは、女役一本にしばって演じている。その浄りを語り、人形をあやつる手さばきには、半世紀を越す積み重ねがある。それでも「人形浄りは、人形の役柄そのものになりきること、ま、いってしまえば簡単ですが、一生かかって自分の芸ができるのは難しいでしょう。生涯が勉強ですよ。」と語る。

熊本市で、大阪文楽の公演があるとき、きまって観客の中に倉岡さんと山下さんの姿がある。専門家の所作から一手でも学びたいというのだ。伝統芸能で心配される後継者については、座員の殆んどが四十歳台で心配はない。しかし、農家の人たちの手による文楽人形という肥後

文楽座の特徴は、反面、多忙なため、なかなか練習する機会がないという悩みにもつながっている。
資金難は現在もかわりない。村から年額二万円の補助を受けてはいるが、百個あまりある頭の維持だけでも大仕事である。頭一つ塗りかえるのに最低一万円は必要だからである。伝統を維持していくことは、物心両面にわたって大変なことである。

「孫も、見よう見まねで浄りを語るのですよ。」今は隠居して、ひたすら、人形芝居と共に生きる倉岡さんと山下さんは、そのことが、なによりも喜しくてたまらないというように顔をほころばせるのである。

人形をあやつる倉岡さん(右)と山下さん(左)

